

効果的なイノシシ対策を目指し技術支援の強化

■ 鳥獣被害防止総合対策実施集落 ■

（東讃農業改良普及センター 矢木聖敏）

●対象の概要

東讃農業改良普及センター管内のイノシシ被害は、平成22年度から24年度をピークに近年やや減少傾向にあるが、被害面積は80ha前後、被害金額は3千万円台で依然高く推移している。これは生息域の拡大、定着化が進み、被害常習田（集落）が存在することや販売単価の高い果樹類の被害が増加していることなどが原因と考えられる。

また、被害農家は、侵入防止柵の設置を行い被害防止対策を講じているが、対策が個人的であったり対策技術が未熟なため、十分な被害防止効果が得られていないことが多い。

●課題を取り上げた理由

近年、国の交付金による鳥獣被害防止総合対策が管内各市町対策協議会で取り組まれている。取り組み内容の大半はイノシシ被害防止のためのワイヤーメッシュ柵の設置であるが、これまでに取り組んだ集落の中には、柵の効果が十分出ない事例が見受けられ問題となっている。

そこで普及センターにおいて、イノシシの侵入を許しているワイヤーメッシュ柵の設置状況を調査分析したところ、被害については柵の設置技術についての知識不足が招いたヒューマンエラーが主原因であることがわかった。この問題を解決するには、単なる事業の推進だけではなく、積極的な技術支援が必要であると考えられることから、平成27年度から関係市町と連携し、事業実施全集落について本課題に取り組むことにした。

表-1 支援集落

年度	支援集落数	市町内訳
27年度	23	高松市2、さぬき市12、東かがわ市9
28年度	15	高松市1、さぬき市1、東かがわ市13

●普及活動の経過

1 設置ルートの確認と環境点検

事業実施集落から提出のあった柵の設置計画について、集落代表者、市町担当者とともに最適な設置ルート設定のための支援を行った。設置予定ルートを歩くことで、侵入防止効果を確保するだけでなく、設置作業時及び設置後の維持管理労力の負担を検討する機会を持つことができた。

また、集落を歩きながら、イノシシ被害発生要因を確認することで、集落環境改善などの対策の必要性についての認識を深めてもらい、その解決のためには集落ぐるみの取り組みが必要であることを理解してもらった。

2 獣害対策学習会の開催

獣害対策の基礎知識を習得してもらおうとともに集落ぐるみの取り組みのきっかけづくりとするために、関係農家を集め学習会を行った。

学習会では、イノシシの生態や行動習性とワイヤーメッシュ柵等侵入防止柵の設置技術の要点について、管内での調査事例などを交え説明した。特に、イノシシの生態については誤った知識（噂話）を持った人が多いことがわかり、正しい知識の普及に努めた。



獣害対策学習会

3 柵の設置技術講習会の開催

侵入防止柵の材料納入に合わせ、柵の設置実習

による技術講習を行い、設置技術のレベルアップと平準化を図った。

被害農家はワイヤーメッシュを初めて扱う場合も多く、針金での結束方法や起伏の多い地形での設置、扉の加工方法などの要領を繰り返し説明し、技術の向上に努めた。また、他地域で行われている工夫事例も紹介し、より効果の高い柵づくりを提案した。

また、可能な限り関係農家に集まってもらい、共同作業を通じた対策の取り組み意識を高めてもらった。

表-2 3つの支援

	支援項目 (対象)	ねらい
1	柵設置ルート の確認と環境 点検 (集落リーダー)	最適ルートの設定支援 被害発生要因の確認と対 策取り組み意欲の向上
2	獣害対策学習 会 (関係者全員)	獣害対策についての基礎 知識の習得 獣害対策についての共通 認識づくり
3	柵の設置技術 講習会 (関係者全員)	獣害対策技術の習得(技術 向上) 共同作業を通じた対策取 り組み意識の高揚

柵の設置終了後には、関係市が行う竣工検査に同行し、「ワイヤーメッシュ柵の設置チェック表」により柵の設置技術を確認し、不適切な場合は修正を指導した。

●普及活動の成果

1 イノシシ及びイノシシ対策についての理解促進

獣害対策学習会の取り組みにより、イノシシやイノシシ対策についての理解促進が図られた。集落では独自に柵の設置ルートに管理道を設け柵の効果や維持管理労力を軽減したり、伐採した竹材等を利用した柵の補強や不要な藪を刈り払いイノシシの接近を防止するなど、創意工夫がみられるようになった(写真-2)。

2 ワイヤーメッシュ柵の設置技術の向上

柵の設置技術講習会の取り組みにより、ワイヤーメッシュ柵の設置精度が向上した。ワイヤーメッシュの結束位置の高さがイノシシの侵入を左右する大きなポイントとなっていたが、

未講習時に設置した時と比べすべての集落で低い位置での結束が行われるようになった(図-1)。また、扉の設置が適切に行われるようになり、扉の合わせ、カンヌキの設置、らせんコイルの差し込みなどが確実にされるようになった。



管理道の設置

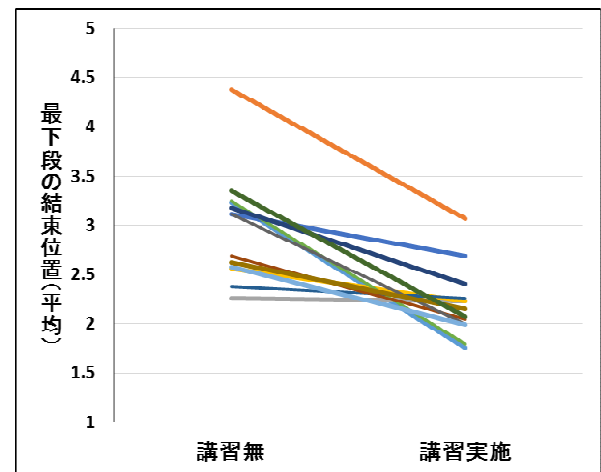


図-1 ワイヤーメッシュ柵最下段結束位置の変化(※複数年で事業実施した同一地区で、技術講習会の有無による仕上がり精度を比較)

3 共同取り組み意識の高まり

学習会や技術講習会などで関係機関が集まる機会が増えたことで、共同取り組み意識が高まり、柵の設置後の見回りや雑草管理などについて継続的な維持管理体制がある集落が増えてきた。

●今後の普及活動の課題

これまでイノシシ被害のために生産活動が停滞していた集落について守れる集落づくりが実現しつつある。このような集落に対し、関係機関が農業生産活動を支援することで集落農業の活性化を図ることが課題となる。